

2020年4月30日(木)

外国語(教科に関する科目)授業内容

1章は外国語(高学年)や外国語活動(中学年)を担当する指導者の英語力はどの程度必要かが中心になっています。どの程度の英語力が必要かは、小学校の外国語活動や外国語の身を見なければなりません。指導内容を見ることによって、どの程度の英語力が求められているかが想定できます。

中高については指導者の英語力の指標が示されています。それは準1級です。中高の教員の準1級取得率も県ごとに示されています。また、教員採用試験では準1級取得者に対しては優遇措置を設けている県も多いです。

中高で英語力の指標が示されているということは、指導者に一定程度の英語力がないと指導できないという前提があります。また、中高においてもコミュニケーション重視の授業が求められ、教師の口頭でのコミュニケーション能力が求められています。文法力が高いだけでは高校の英語教師も務まらなくなっています。

さて、小学校で英語を教える指導者にはどの程度の英語力が求められているのでしょうか？これについては、20年以上も激しい議論がなされてきました。この議論を整理すると、例えば、鉄棒の逆上がりができない人が小学生の体育を指導できるかという議論と似ています。みなさんはどう思いますか？体操選手のように上手くできなくても、ある程度の基礎的な技術や知識が求められるでしょう。また、体操が上手だからと言って、小学生に鉄棒が上手く教えられるかという、必ずしもそうではありません。英語の授業でも同じようなことが言えると思います。

さて、実際にはどの程度の英語力が必要でしょうか。テキストには以下のようなことが示されています。

☞テキスト18~20ページをよく読んでおきましょう。

実際の授業場面で考えてみましょう

☞テキスト24ページを見てください。

☞具体例2のようなことがスムーズに言える英語力が求められているということが言えます。みなさんの出身地(県、市町村)について具体例2を参考に英語で紹介してください。

Small Talk ができる英語力

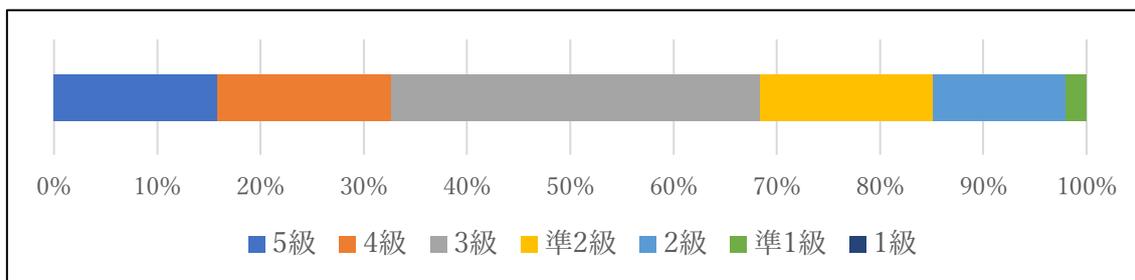
☞私が教員研修の際に配布した資料をよく読んでおいてください。

文部科学省は小学校の指導内容に鑑みて、実ほどの程度の英語力が必要かについて、既に公表しています。それは、私の HP で既に紹介しているコア・カリキュラムに示しています。そこでは指導者の英語力の指標を英検 2 級としています。

私が調査した小学校の先生の英語力の状況について紹介したいと思います。

☞配布資料をよく読んでおいてください。

<自分自身の英語力（自己評価）>



<最後に>

小学生を教える時に大切なことは何でしょうか？